



通常総会

「変化を正しくとらえて」

——新副会長に砂子慎一氏（コニカミノルタジャパン(株)）

プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会（山田周一郎会長）は5月9日、通常総会を明治記念館で開催し、上程された議案を原案どおり承認した。総会後には、作家・ジャーナリストの渋谷和宏氏が「多様化する情報活用 その本質」をテーマに記念講演を行った。

総会に先立ち、山田会長が次のようにあいさつした。

「現在は変化のスピードが大変速く、その変化にわれわれもさらされている。変化にともなって生じた新しい事業課題、円安、原材料や賃金の高騰、人手不足などに対応していかなければならず、難しい状況が続いている。

一方でデジタルの進歩は目覚ましく、それがますます業界に変化をもたらすであろうことは、皆様も感じられていると思う。今月末から開催されるdrupaでは、印刷、またはその周辺工程の変化の道筋と展望が各社から提示されるだろう。特に、これからの印刷物のあり方、デジタル技術の活用について、われわれが業界に提供していかなければならない。

当会では、現状や将来の展望を正しくとらえ、議論し、業界の発展に貢献する情報を発信していきたい。より一層のご支援をお願いしたい」

2024年度は、会員にとって有意義となる講演会を中心に活動し、会員各社のさらなる発展、向上を図る。また、ユーザーおよび関連団体と連携しながら技術・業態の変革に対応した事業活動を展開することで業界の発展に貢献することを目指す。

さらに、従来の委員会・部会活動に加え、伸長著しいデジタルプリンティング分野に関する市場・技術動向調査、意見交換を積極的に行っていく。



山田会長

記念講演では、渋谷氏が、情報を有効活用した戦略で復活を遂げた企業、顧客に寄り添い成長を持続させている企業の例を紹介し、印刷業界の復活を実現するためのヒントを提示した。

懇親会では初めに、今年4月の理事会で副会長を退任した須田徹氏が「当会の会員は、競合同士でも業界を支え、発展させていく同じ仲間だ。会で情報交換し、各社に持ち帰って実行プランを考えるとこのような会にしてほしい」とあいさつした。

続いて、砂子慎一（すなごしんいち）新副会長（コニカミノルタジャパン(株)・執行役員 プロフェッショナルプリント事業部長）が「異業種から来てまだまだ分からないことも多いが、こういった集まりで皆様からご意見



田中副会長



退任のあいさつをする須田氏

などいただき、業界に貢献していきたいと思っている」と就任のあいさつを述べた。

続いて、田中志佳副会長が「本日の講演の『ライフタイムバリュー』は今後のビジネスの良いヒントであり、デジタルであれば、そのサポートができる。当会はそのためのソリューションを提供できる会社の集まりだと思っている。当会とのお客様とが一緒になって業界を盛り上げていきたい」と乾杯発声し、懇親会へ。

中締めでは、砂子副会長が「大きな業態変革が起きている現在はチャンスだと受け止めている。ピンチをチャンスに変えて業界を盛り上げていきたい」とあいさつし、お開きとなった。



砂子慎一氏のプロフィール

1969年生まれ、55歳。1994年 獨協大学卒業後、東芝機械株式会社（現芝浦機械）入社。

アルミの成形機であるダイカストマシンの営業に従事、上海駐在8年を経て2016年ダイカストマシン事業部長、2019年から執行役員、同事業とプラスチック成形機事業を管掌。

2023年9月 コニカミノルタジャパン株式会社入社。

2024年 執行役員プロフェッショナルプリント事業部長に就任、現在に至る。



2023年 会員の集い

4年ぶりの完全リアル開催で懇親深める

「2023年 会員の集い」を12月1日に東京・港区の明治記念館で開催し、約50名の参加者が懇親を深めながら情報交流を図った。

4年ぶりに完全リアル開催となった講演会では、元NHKアナウンサーで現在は心療内科医として活躍する吉田たかよし氏が「記憶力、免疫力がよみがえる健康生活術！」をテーマに手軽に実践できる健康術を指南。ビジネスパーソンのメンタルトラブルを防ぐ手法などを解説し、軽妙な語り口で会場を沸かせた。

続いて行われた懇親会であいさつに立った山田会長は今年1年を振り返り、「コロナ規制が終わったことは非常に明るいニュースで、生活環境も元に戻って動けるようになった。一方で、世界的にはさまざまなことが起きており、地政学的リスクによる経済的影響は大きい。それに対する備えは当然だが、ビジネスパーソンとして自身の考えを問われる時代になっている。また、お客様を見ると、必死に変化への対応に尽力されている姿を目の当たりにしてきた。そうしたお客様を全力で支え、変化

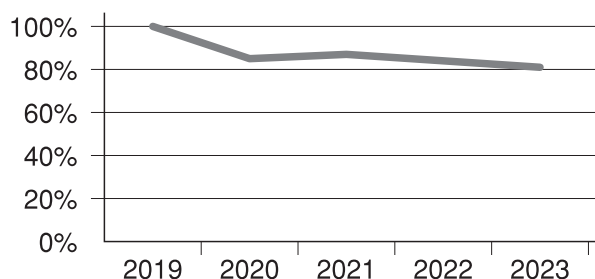
へのサポートをすることがわれわれの役割だ。業界の状況を正しく理解した上で、オープンに、率直に議論していただきたい」と述べた。

乾杯発声では、須田徹副会長が「会長からも話があったように、地政学的な問題が毎年のように起こっている。来年はdrupa 2024など大きなイベントが開催されるが、国内外で大きな問題が起こらないことを切に望んでいる。同時に、協議会のますますの発展と皆様個人および企業の発展を祈念したい」と述べて杯を上げた。

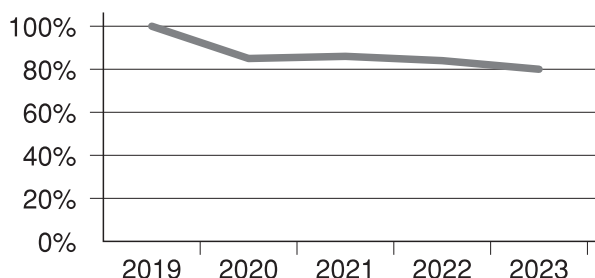
歓談の最中には大抽選会などのアトラクションを楽しみ、中締めでは田中志佳副会長が「『プリプレス&デジタルプリンティング』という面で考えた時、プリプレスではCTPの生産性が向上し、消費電力が削減され、『エコ』になっている。もちろん、デジタルも『エコ』だ。この会の会員企業がやってきたことを推し進めれば、エコだけでなくオートメーション、DXに直接的に、間接的に貢献していける。来年は辰年。上り龍のように業界が良くなることを祈念したい」とあいさつした。

【感光材出荷量推移】

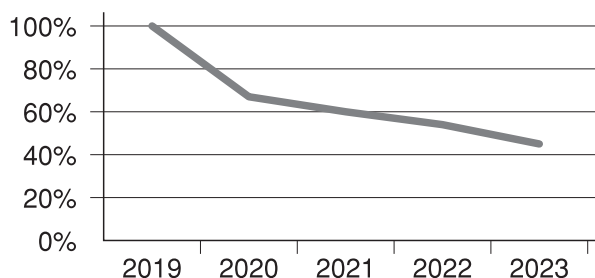
●CTP版出荷量推移（2019年を100として）



●オフセット版材出荷量推移（2019年を100として）



●印刷用フィルム出荷量推移（2019年を100として）



drupa、8年ぶりにリアル開催

デジタルプレスに高い関心 ―会員企業が多数出展、存在感発揮

世界最大の国際印刷・メディア産業展「drupa 2024」が5月28日から6月7日までの11日間、「we create the future」をテーマにドイツ・デュッセルドルフ見本市会場で開催された。コロナ禍でリアル展としては8年ぶりに開催された今回、見本市会場の18ホール・約14万㎡の展示面積に、世界52カ国から1,643の出展者が最新のソリューションを展示。会期中には約17万人の来場があった。

来場者の内訳では、海外からの来場者が過去最高となる計174カ国、全体の80%に達した。地域別ではヨーロッパに次いでアジアが22%を占めた。出展者数でも中国が開催国であるドイツを抑えてトップであり、日本からの出展者は約50社あるなど、drupaにおけるアジアの存在感が確実に高まっている。

会場で最も注目を集めたのは多彩なデジタルプレスで、当会の会員も出展。その中核を担った。

世界初、あるいはヨーロッパ初出展となる最新機が会場を彩り、特に枚葉型のデジタルプレスでは用紙対応力や色安定性、高度な自動化システムを搭載しながらB2サイズ以上で5,000枚/時を超える高生産モデルが発表



された。

また、その生産性を最大限発揮するための工程間をつなぐワークフローシステムや、AGVやロボティクスを活用したスマートファクトリー提案も行われた。

製品分野別では、パッケージ分野を強く意識した提案が目立った。印刷から加飾、フィニッシュ加工までの一気通貫ラインに加え、小ロットのハイブランド市場をにらんだバリアブル後加工機、大小さまざまなダイカット機など、各社の発表からは堅調なパッケージ分野ヘシフトする動きが顕著に表れていた。

なお、次回展については2028年に開催される。

部会の活動

デジタルプリンティング部会が7月11日、コニカミノルタジャパン(株)で開催され、(株)GIMSの寶積昌彦社長が、「印刷設備投資 使える最新補助金情報」をテーマに講演した。

講演では今注目を集める「中小企業省力化投資補助金」を中心に今後の補助金の動向を解説した。



今後の主なイベント

- **PRINTING United Expo 2024**
9月10日～12日
Las Vegas Convention Center
- **2024年9月 印刷の月 記念式典**
9月11日 ホテルニューオータニ
- **フレキシソ・ジャパン2024**
10月10日～11日 有明TFTビル
- **2024 印刷産業夢メッセ**
10月18日～19日 広島ガーデンパレス
- **TOKYO PACK 2024**
10月23日～25日 東京ビッグサイト
- **page2025**
2025年2月19日～21日
サンシャインシティ コンベンションセンター